

巻頭言 ー着任のご挨拶ー



＜消化器外科＞
澤田 成彦 准教授

2024年6月11日に消化器センター外科診療科長を拝命いたしました澤田成彦と申します。

私たちが所属する消化器センターは、内科・外科の垣根を取り払い、口から肛門まで続く消化器官、および、付属器官である肝胆膵（かんたんすい）まで、消化器疾患全般の診療・治療を行っております。特に、当外科における腹腔鏡（ふくくうきょう）手術件数は全国でも上位に入っており、2023年からは、ロボット手術の機械であるDaVinci（ダヴィンチ）が導入されました。

現在、ロボット手術は婦人科、泌尿器科、呼吸器科、女性骨盤底（こつばんてい）科、と私たち消化器外科が施行しており、月に30件を超すようになってまいりました。また、胃癌、大腸癌におけるロボット手術件数は関東でもbest5に入る症例数を数えることとなりました。

ロボット手術は関東だけではなく、全国の最高レベルでありたいと、日々精進しております。ひとえに私たちを信じて、患者様をご紹介して下さる地域の先生方、同門の先生方には深く感謝致しております。

また、消化器外科に限らず消化器センター全体として、近隣の開業医の皆様との連携を密にしており、Dr to Dr(クリニック等の医師より直接当院へご連絡いただき、ご紹介いただくこと)での連絡や、定期的な勉強会を通して、より強いつながりを図っており、患者様が地域で継続性のある適切な医療を受けられるよう努めております。

世界中で新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、私たち医療職は多くの困難に直面しました。しかしながら、厳しい状況下であっても、当センター員は、今後も引き続き一丸となって立ち向かい、多くを乗り越えてゆく所存です。

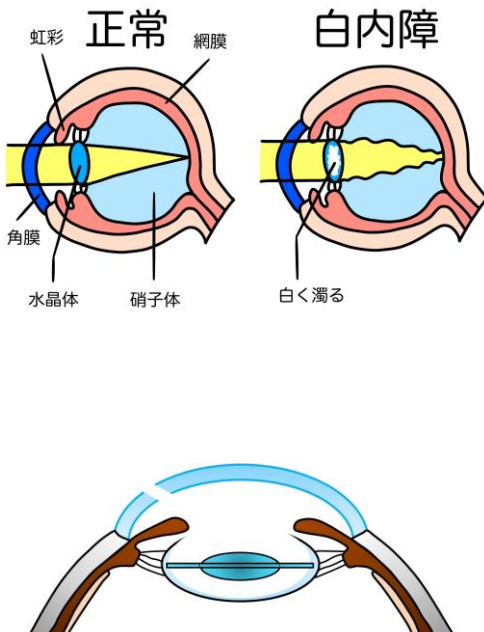
私自身は不器用で、愚直に進むしかありませんが、患者様の力になれるよう日々精進してまいります。これからも皆様のご指導とご鞭撻の程をどうぞよろしくお願い致します。



- P1 【巻頭言】 消化器外科診療科長 着任のご挨拶
- P2 【医学講座コーナー】 白内障について
- P3 【秋期市民公開講座について】
- P4 【患者さんからのご意見・ご要望】 【編集後記】

【公開講座コーナー】白内障について

（眼科 教授 藤澤 邦見）



白内障手術は、目の中の曇ったレンズを、透明なプラスチック製のレンズに交換する手術です。白内障になることによって、かすんだり、まぶしかったりして、視力が低下したときに手術となります。

この白内障手術で、日頃使っていたメガネがいらなくなるようにできるんです。それには多焦点眼内レンズを使用するのが、まずは基本です。通常のレンズは、ピントの合う位置が遠くだけだったり、手元だけだったり、その中間だけだったりするのに対して、一枚のレンズで、遠くも中間も手元にもピントが合うレンズなのです。若い頃に自然に見たいところにピントを合わせてメガネ無しで見ていたのとは、違う見え方なので、やや慣れが必要ですが、多焦点レンズの手術を受けた80%以上の方が、日常では、ほぼメガネを必要としなくなっています。もちろん、当院で手術を受けた方も同様の結果です。多焦点レンズは構造が複雑なため、価格が高価で、通常の保険診療で行われる手術の費用以外に選定療養費という厚労省に認められた追加費用が30万円弱ほどかかります。「そんな費用はとても負担できない、メガネ無し生活は諦めた。」という方にも、保険の範囲内での方法がいくつかあります。

一つは、左右の目でピントの合う位置をずらす方法です。モノビジョン法と呼ばれる方法ですが、たとえば、右目は遠く、左目は中間～近く とすることで、かなりメガネを使う機会を減らすことができます。ただし、左右で見え方が異なるために慣れが必要になります。

もう一つは、保険の範囲内で使うことのできる2焦点レンズを使う方法です。選定療養費が必要な多焦点レンズほどには広い範囲にピントが合うわけではないですが、通常の単焦点レンズに比べると、広くピントが合います。このレンズとモノビジョン法を組み合わせると、多焦点眼内レンズにかなり近い効果が出ることもあります。メガネがなくてすむと、ラーメンでメガネが曇らなくなります。メガネがなくてすむと、大地震で逃げるときに、メガネを気にせずに逃げ出すことができます。

メガネ無しを目指すには、多焦点眼内レンズの効果が、やはり一番です。15年ぐらい前は、医師自身が手術を受けるときは多焦点眼内レンズを使わないことが多かったのですが、今は違います。医師自身が多焦点眼内レンズの移植を受けて、その恩恵にあずかっている医師がたくさんいます。

因みに、私はもう62歳で、元々の近眼と老眼ですが、今は、遠近ワンデーコンタクトレンズと左右のずらし（軽いモノビジョン法）をして、ほとんどメガネ無しで過ごしています。なので、白内障になって手術を受けるとしたら、もちろん多焦点眼内レンズを選びます。白内障手術を受けて、眼鏡のいない生活を手に入れて下さい。

2024年度 秋期市民公開講座 暮らしと健康



昭和大学
横浜市北部病院

〈司会〉耳鼻咽喉科 准教授 野垣 岳稔

第1部

「白内障手術で、メガネ無し生活に！
～老眼鏡もいらなくなる白内障手術～」

〈演者〉眼科 教授 藤澤 邦見



第2部

「サルコペニアとフレイルに立ち向かう！
健康維持のためのセルフマネジメント」

〈演者〉リハビリテーション室
技師長 石原 剛



開催日時 **10月12日(土) 13時00分～**

参加方法

参加無料・予約不要

・ **集合参加** 場所：西棟4階講堂

・ **オンライン参加** (Zoomウェビナー)

※右記QRコードからアクセスできます。

詳細は当院ホームページに掲載しています。



いずれも予約不要ですので、お気軽にご参加ください。

主 催

昭和大学横浜市北部病院
E-mail: nhkouhou@gmail.com

後 援

公益社団法人 横浜市病院協会

患者さんからのご意見・ご要望

ご意見・ご要望	回答・改善等
Wi-Fi がいつもつながらず困る。	ご不便をおかけし申し訳ございません。 以下の方法にてフリーWi-Fi に接続可能ですので、お試しください。 ① 下記の QR コードを読み取るか、Wi-Fi 名・パスワードを入力する。 Wi-Fi 名 : Showa__Hospital-FREE-WIFI パスワード : showa#8000 ※ QR コードの場合、Wi-Fi 名、パスワードの入力が省略されます。 ※ 読み取る際は端末のカメラアプリで行ってください。 ダウンロードサイト（App Store・Google Play Store 等）から取得した「QR コード読み取りアプリ」を使用すると接続できない可能性があります。 ② 認証画面が表示されたら『Accept(承認)』ボタンを押して利用開始。 以上、ご不明な点等ございましたら、ご遠慮なくお近くのスタッフにお声がけください。 ご意見ありがとうございました。 （回答部署：管理課）
点滴治療の際に、手足を冷やすグローブを使用していますが、グローブの数の不足で、今回は保冷袋で代用しました。 グローブの増加を要望します。 看護師さんにも余計な手間をかけました。	この度はご不便をおかけし申し訳ありませんでした。 治療中に手足を冷やすクールミトンの数が不足していたため、代用での対応となってしまいました。 最近、クールミトン使用の対象患者さんが急増しており、早急にクールミトンの数を増やして対応できるようにしてまいります。 貴重なご意見ありがとうございました。 （回答部署：看護部）

編集後記

今年はパリオリンピックがありました。選手団の登場がセーヌ川で行われ、フランスならではの開会式の演出で始まりました。日本人選手の活躍が私たちに感動や勇気を届けてくれました。皆様とオリンピックや甲子園についてお話できたことが印象的です。

スポーツの秋という言葉があります。1964 年に日本で開催された東京オリンピックの開会式の日（10 月 10 日）にちなんで「体育の日（現在はスポーツの日）」が定められた後、それが由来になってスポーツの秋、運動の秋と呼ばれるようになったそうです。

日中の適度な運動は筋力や持久力の向上、睡眠の質の向上、ストレスの軽減などの役割を果たします。無理なく続けられるご自身にあった運動プログラムを見つけてみましょう。まだまだ暑い日は続きますので水分補給は忘れずにお過ごしください。

（リハビリテーション室 小池技師）



北部病院だより 第 195 号（2024 年 9 月 1 日発行）

発行責任者 坂下 暁子（昭和大学横浜市北部病院長）

編集責任者 緒方 浩頭（広報委員会 委員長）

発行 昭和大学横浜市北部病院

〒224-8503 横浜市都筑区茅ヶ崎中央 35-1

電話 045-949-7000(代表)

URL : <https://www.showa-u.ac.jp/SUHY/>

北部病院ホームページにて最新・過去の『病院だより』がご覧いただけます。